

2026年3月期 第3四半期 決算補足説明資料



2026年2月
東証スタンダード市場：3423

 株式会社 エスイー

1. 2026年3月期 第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

1. 2026年3月期 第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

サマリー

前年同期比～減収減益

建設用資機材の製造・販売事業では、災害対策工事の一時的な落ち込みや工期の後ろ倒しから減収。建築用資材の製造・販売事業も施工量減少や工事の後ろ倒しにより同様の状況。販管費削減を図ったものの、研究開発部門の人件費・経費の増加により、営業利益・経常利益は減益幅拡大。

			(百万円)	
	2024年度 3Q	2025年度 3Q	前年同期比	
			増減	(増減率)
売上高	18,489	17,514	▲975	(▲5.3%)
売上総利益 (対売上高比)	5,055 (27.3%)	4,719 (26.9%)	▲336 (▲0.4%)	(▲6.6%)
営業利益 (対売上高比)	615 (3.3%)	181 (1.0%)	▲433 (▲2.3%)	-
経常利益 (対売上高比)	628 (3.4%)	177 (1.0%)	▲450 (▲2.4%)	-
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (対売上高比)	378 (2.0%)	57 (0.3%)	▲320 (▲1.7%)	-

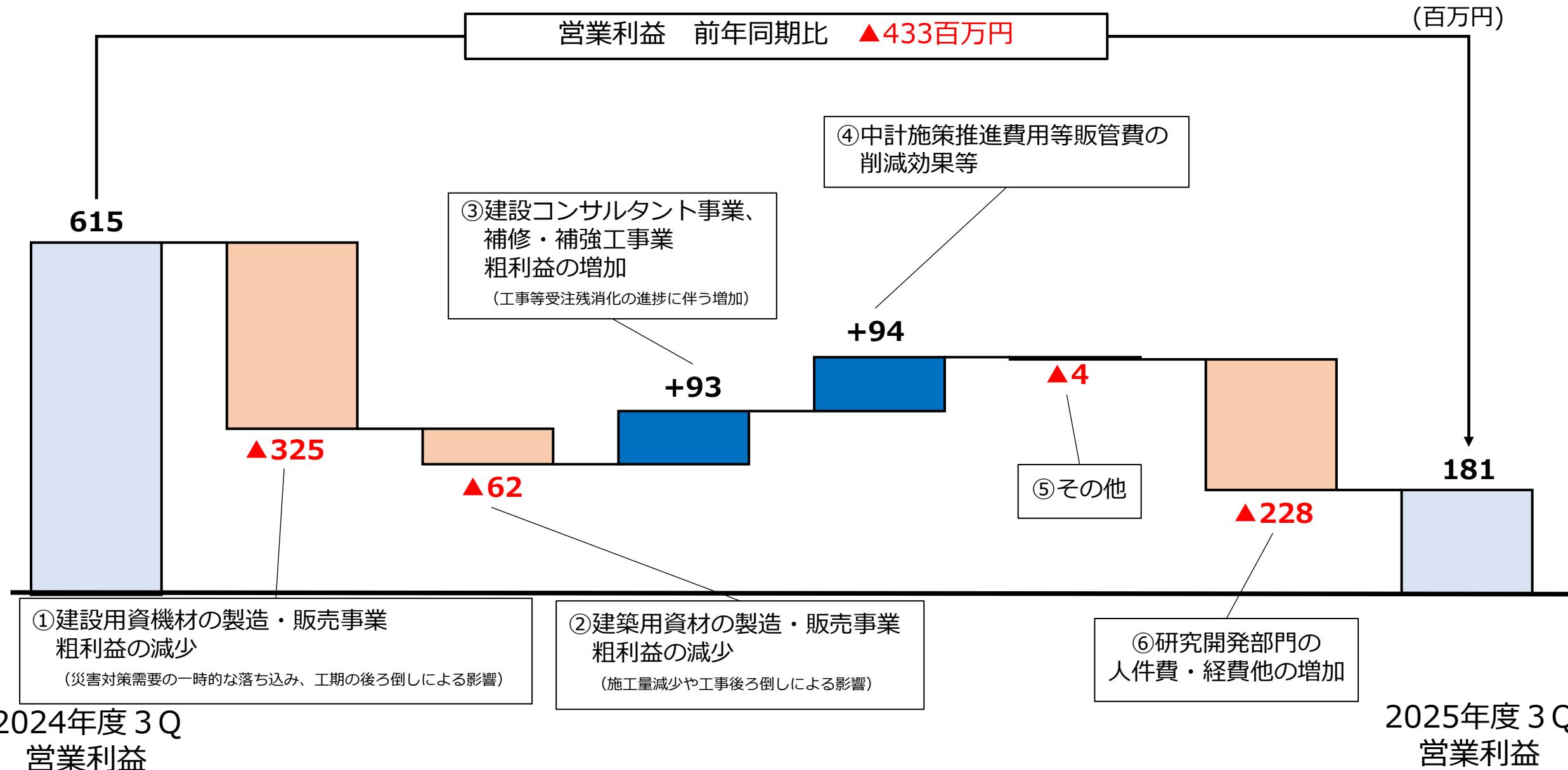
・売上高・売上総利益

- 建設用資機材の製造・販売事業において、災害対策工事では大型案件を含め一時的に需要が減少、高速道路関連の工事では工期が後ろ倒しとなったことにより、売上高・売上総利益が減少。
- 建築用資材の製造・販売事業において、施工量の減少や工事の後ろ倒し等により、売上高・売上総利益が減少。
- 全体では売上高は前年同期比975百万円の減収、売上総利益は336百万円の減益。

・営業利益・経常利益・純利益

- 当年度費用の削減効果や売上高減に伴う運賃が減少したことで研究開発部門以外の人件費・経費は抑えられたが、研究開発部門の人件費・経費が増加し、営業利益・経常利益は減益幅が拡大。

1-2.当第3四半期連結決算実績サマリー（営業利益増減）

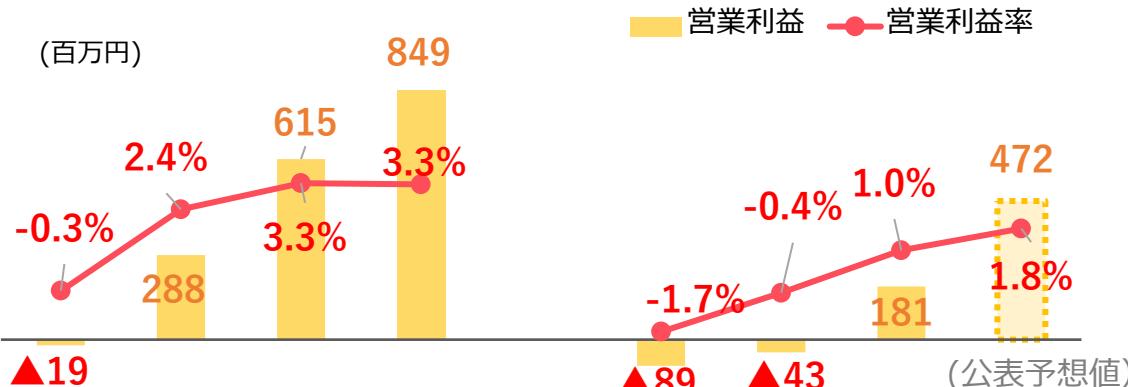
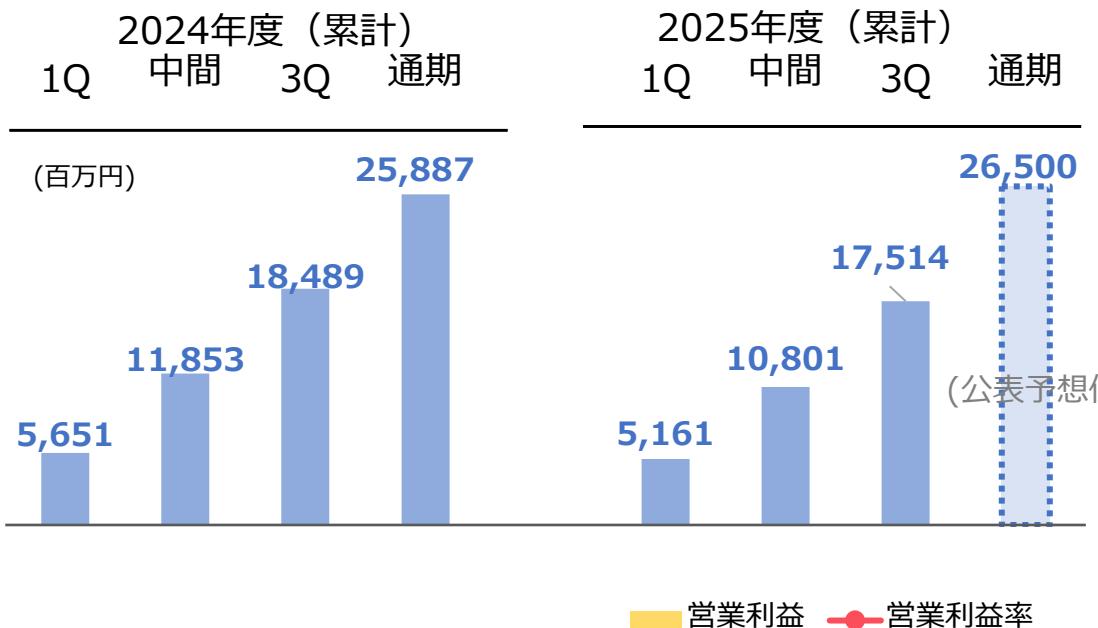


1-3.当第3四半期連結決算実績サマリー（公表予想比）

サマリー

公表予想比～ 売上高は工期後ろ倒しの影響やESCON事業の進捗度合い状況を受け進捗率が前年同期を下回る。一方で、販管費の削減等により、営業利益は予想値を維持できる見通し。営業利益以下は、研究開発部門の進捗によるブレが大きくなるが、現段階では年間公表予想は売上・利益ともに変更無し。

売上高



・売上高 ~公表予想値達成を目指すものの、予断を許さない状況。

- 公表予想値は前年度比增收としているが、工期の後ろ倒しを主因として建設資機材事業、建築資材事業において、苦戦を強いられる状況。
- 能登震災対応含めた災害対策需要も本格化には時間がかかる見通し。ESCON事業も今期収益に貢献する案件の獲得は厳しい状況。
- 建設コンサルタント事業、補修・補強工事業は好調なもののかバーするまでには至らず。
- 各事業第4四半期計上を見据え、確度の高い案件を着実に積み上げ、公表予想の達成を目指す。

・営業利益 ~達成は十分見込める状況

- 公表予想値は、研究開発部門の人件費・経費の大幅増により、前期比大きく減益予想。
- 売上減少に伴い売上総利益は減少しているが、販管費の削減により、公表予想値の達成は十分見込める。

サマリー

配当金の支払いにより純資産が減少。自己資本比率、D/Eレシオは概ね横ばい。

(百万円)

資産			負債							
2025年 3月末	2025年 12月末	増減	2025年 3月末	2025年 12月末	増減					
25,470	24,621	(主な内訳) ▲964 現金及び預金 ▲1,050 受取手形、売掛金及び契約資産 +538 電子記録債権 +506 棚卸資産 +175 その他投資 ▲849	14,248	13,686	(主な内訳) ▲251 支払手形及び買掛金 ▲253 その他流動負債 ▲562					
純資産										
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>2025年 3月末</th> <th>2025年 12月末</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11,221</td> <td>10,934</td> <td>(主な内訳) ▲392 株主配当金支払い +57 親会社株主帰属四半期純利益 +49 その他有価証券評価差額金 ▲287 </td></tr> </tbody> </table>					2025年 3月末	2025年 12月末	増減	11,221	10,934	(主な内訳) ▲392 株主配当金支払い +57 親会社株主帰属四半期純利益 +49 その他有価証券評価差額金 ▲287
2025年 3月末	2025年 12月末	増減								
11,221	10,934	(主な内訳) ▲392 株主配当金支払い +57 親会社株主帰属四半期純利益 +49 その他有価証券評価差額金 ▲287								

	2025年3月末	2025年12月末	増減
運転資本 (百万円)	4,943	5,069	+125
有利子負債 (百万円)	5,502	5,410	▲91
純資産 (百万円)	11,221	10,934	▲287
自己資本比率 (%)	44.0	44.3	+0.3
D/Eレシオ (倍)	0.49	0.50	+0.00

サマリー 配当予想**13円/株**は変更なし。

中期経営計画の株主還元の基本方針

- ・直接的な利益還元（配当）と成長投資による中長期的な株価上昇によるトータルリターンを目指す。
- ・配当金については、長期安定配当を基本とし、株主資本配当率（DOE）3.5%以上を目安とする。

【中期経営計画での株主還元の方針に基づく試算】

		2024年度
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	543
株主資本	(百万円)	11,049
1株当たり配当金	(円)	13
配当金総額	(百万円)	392
配当性向	(%)	72.2
株主資本配当率	(%)	3.55

2025年度 (予想)	
3Q	57

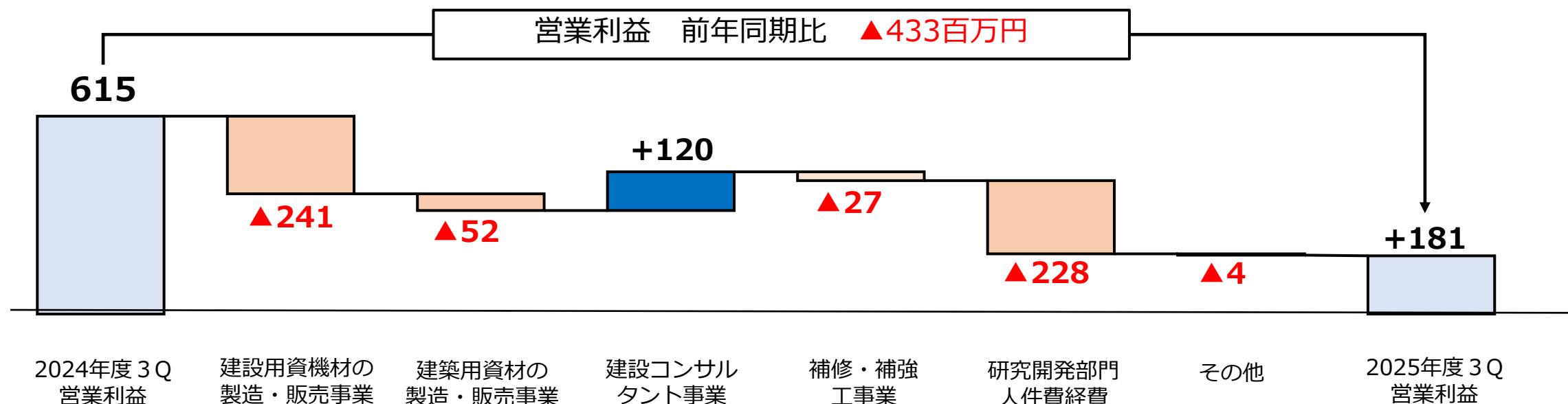
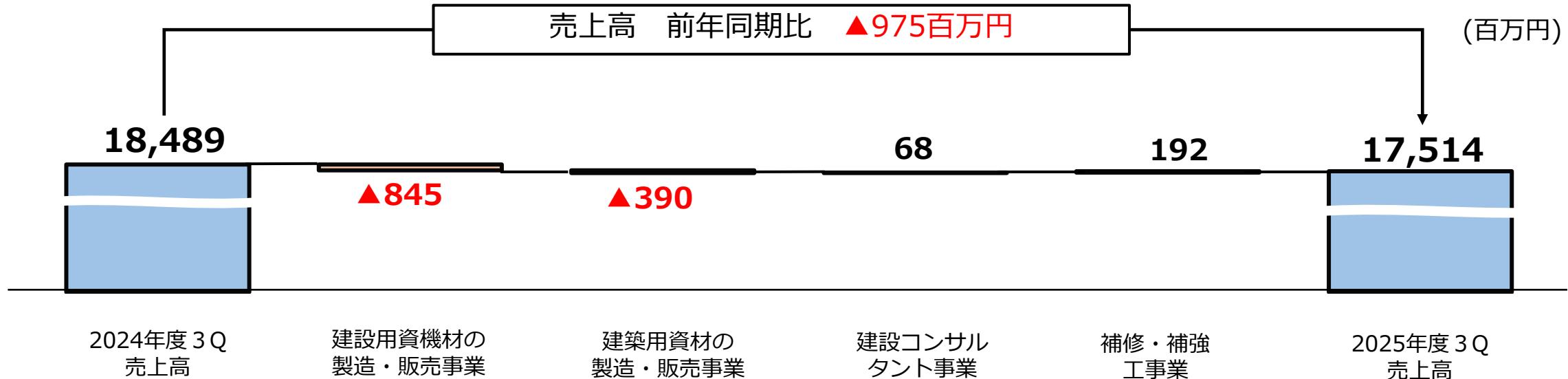
当期純利益（計画）より単純試算（他の条件不变の前提）

10,713	10,714
—	13
—	392
—	680.6
—	3.67

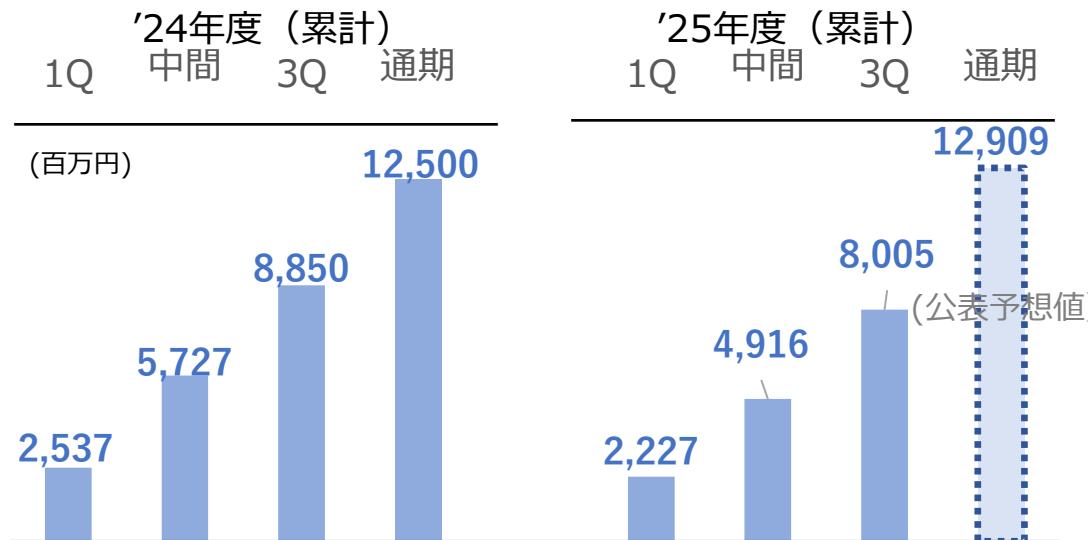
(注) 株主資本配当率=配当金総額÷期末株主資本（新株式払込金を除く）×100

1. 2026年3月期 第3四半期 連結決算実績
2. セグメント別の状況

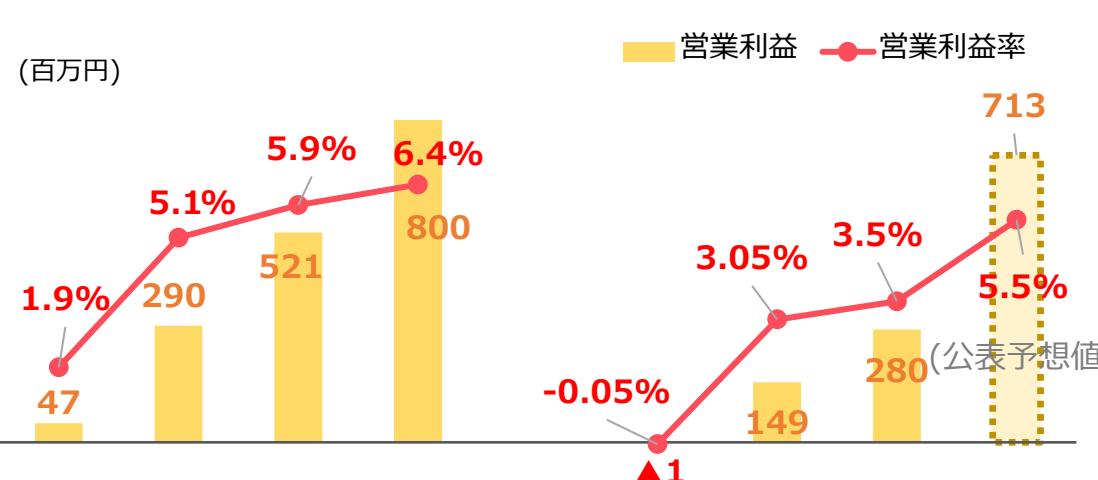
2-1.セグメント別増減（前年同期比）



売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～減収減益

・売上高 (前年同期比▲9.5%)

- 災害対策工事が一時的に落ち込む中、能登震災の復興案件も本格稼働には至らず。
- 高速道路リニューアル関連は工期調整に伴い売上計上が一部後ろ倒し。

・営業利益 (前年同期比▲46.3%)

- 人件費・経費等の販管費が抑えられた一方、上記減収要因により減益。

○公表予想値～苦戦を予想

-公表予想値は、大型案件の端境期となるも、高速道路リニューアル対応を中心に行き環境は継続するため増収を見込むが、人件費・増加等により、営業利益は減益を見込む。

～相当な苦戦が予想されるが、公表予想値は変更なし

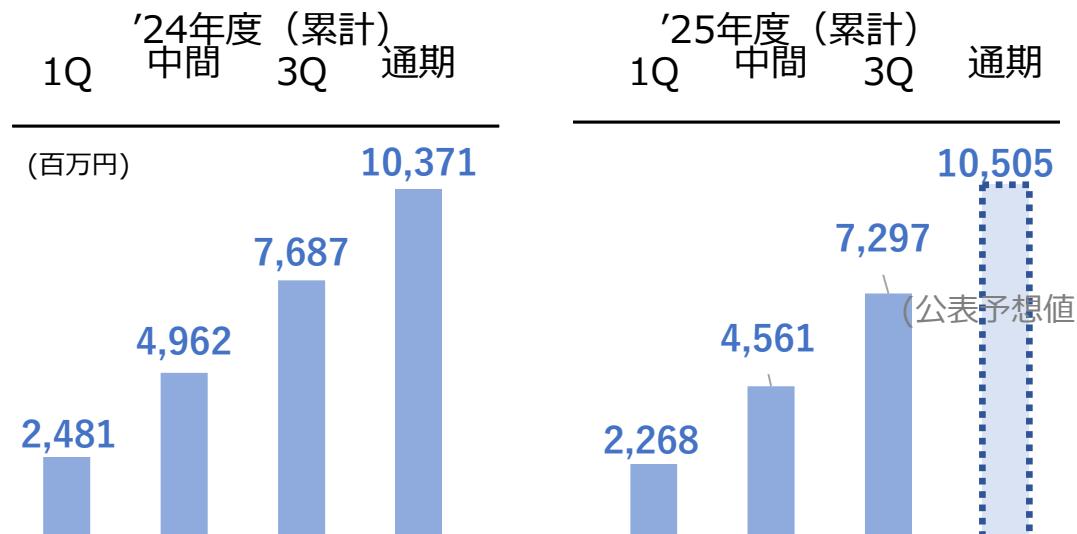
-第3四半期までの売上高は、工期の後倒しや災害対策工事の一時的な落ち込みにより出荷が伸び悩み、苦戦。ESCON事業でも今期収益化案件の獲得が厳しい状況。

-確度の高い案件を着実に積み上げ、公表予想の達成を目指す。

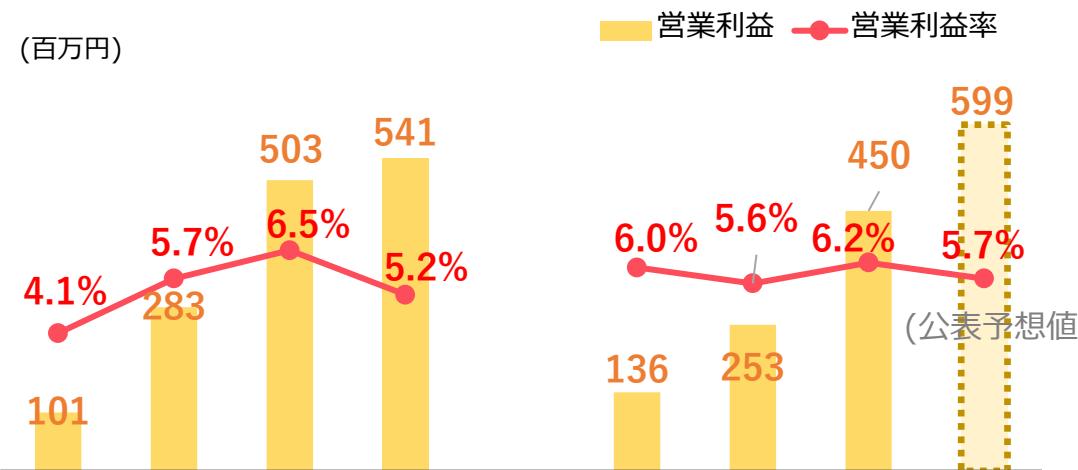
-営業利益は、販管費の圧縮に取り組んでおり、公表予想値の達成を目指すが、売上総利益の下振れ懸念は残る。

2-3.建築用資材の製造・販売事業

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～減収減益

・売上高（前年同期比▲5.1%）

-建築金物分野では引き続き内装関連の需要が縮小したまま回復に至らず、仮設建材関連は酷暑時の労働時間短縮・働き方改革・人手不足により施工量が減少。鉄骨工事分野においては、工事進捗の遅れの影響で売上高が後ろ倒し。

・営業利益（前年同期比▲10.4%）

-減収要因により利益も減少。

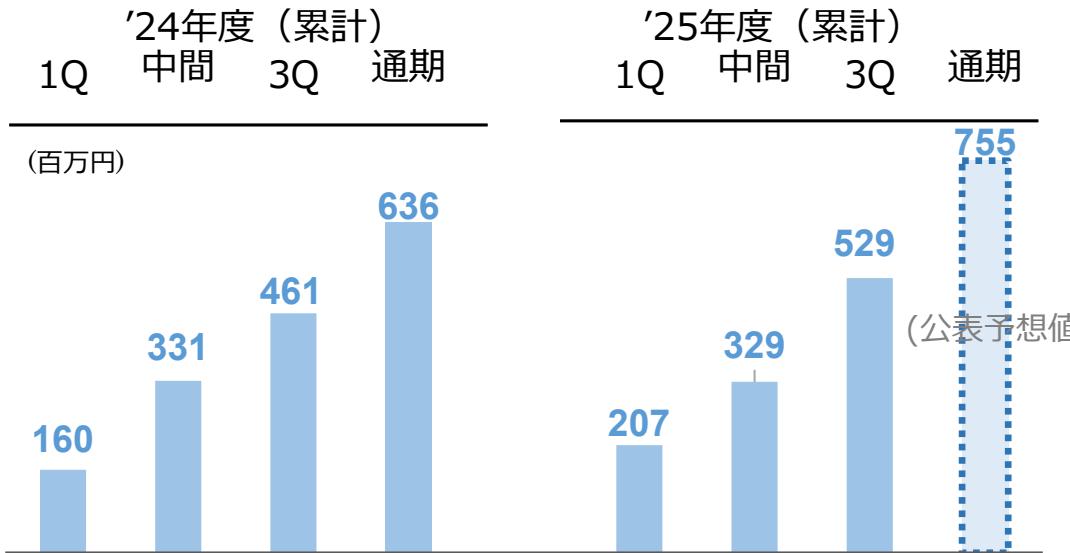
○公表予想値

-首都圏を中心とした再開発需要へのアプローチ、大型案件の確実な受注に取り組み、価格転嫁および選別受注による利益確保によって増収増益予想。

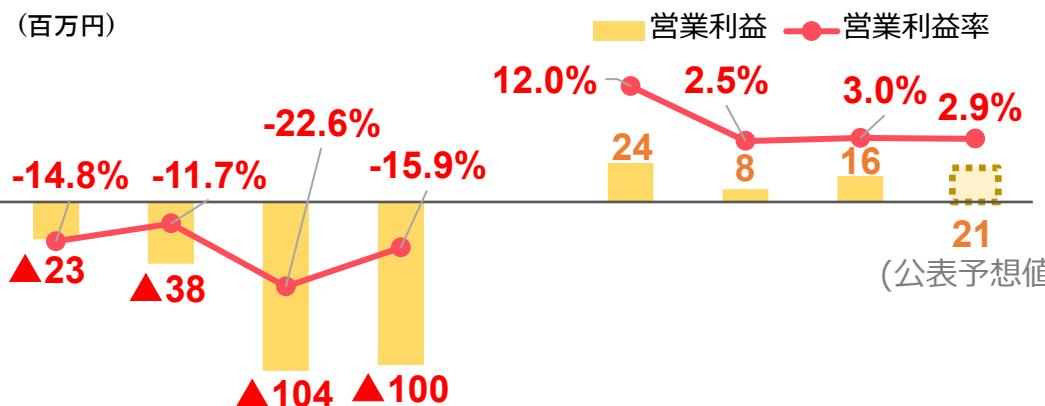
～厳しい環境は継続するも売上・利益確保を強化して対応

-建築金物分野は首都圏での活動に注力し、鉄骨工事分野では、受注案件の積み増し・原価低減策を継続。

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～増収増益

・売上高 (前年同期比+14.8%)

-期初受注残の消化が第3四半期以降持ち直し、受注金額の高い案件の消化が順調に進んだことにより増収。

・営業利益 (前年同期は▲104百万円の営業損失)

-前年同期と比べ高利益率案件を確保できたことから営業利益が増益。

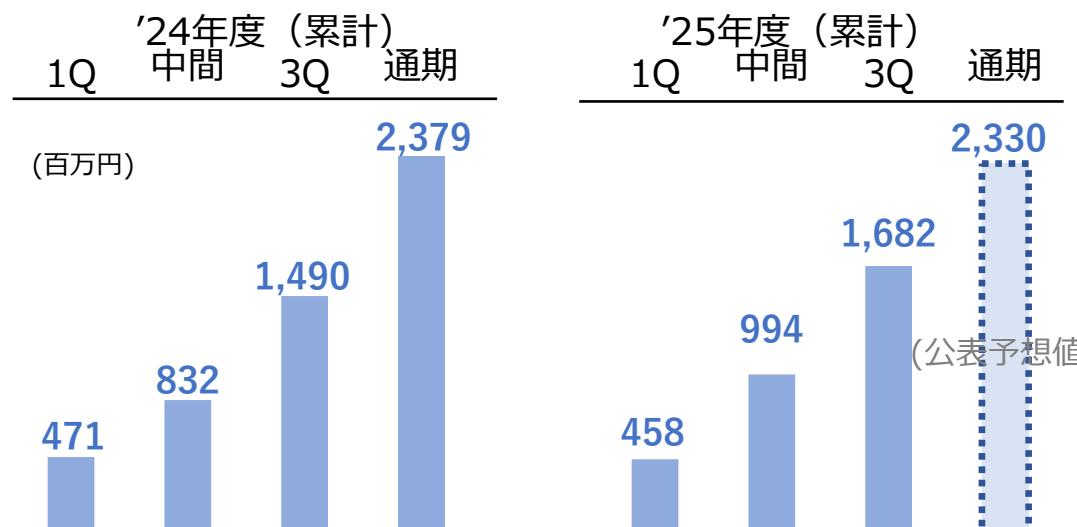
○公表予想値

-JICA以外からの案件受注の増加や海外コンサルとの連携にて増収増益、黒字化の公表予想。

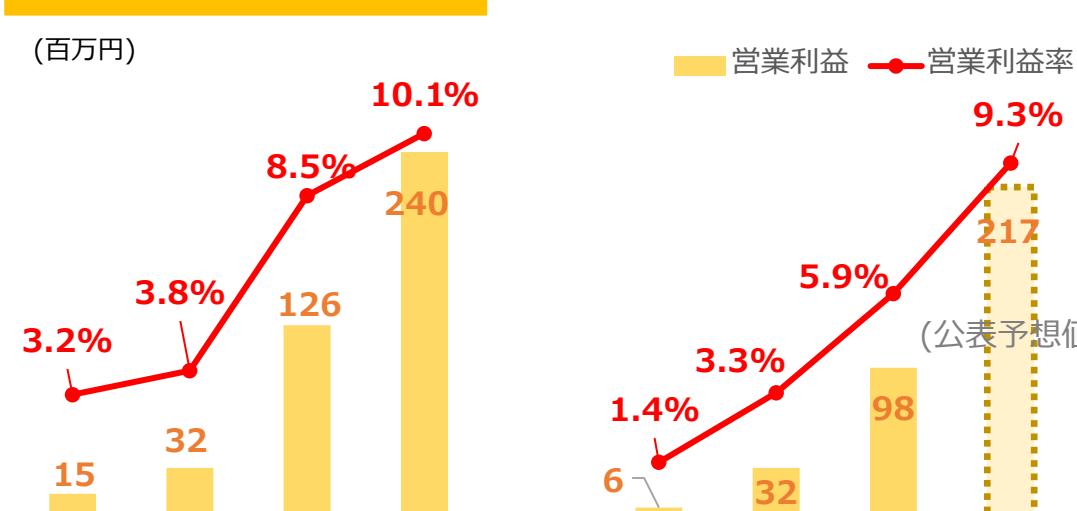
～受注残の消化に注力し、黒字をキープ

-受注案件の安定的な消化を継続し、管理体制を徹底。

売上高



営業利益・営業利益率



○前年同期比～増収減益

・売上高 (前年同期比+12.9%)

-引き続き、期中受注案件增加に伴い、案件消化も増加。

・営業利益 (前年同期比▲21.5%)

-売上高は増加するも、案件小規模化や外部委託の影響で利益率は低下し、減益。

○公表予想値

-好環境は継続するものの、県等自治体案件の小型化により、若干の減収減益の公表予想。

～好調を維持し予想値達成を目指す

-好調な受注状況を生かし、最適な人員配置等の効率化により、公表値達成を見込む。

将来見通しに関する記述についての詳細〔ご参考〕

当資料は、あくまで株式会社エスイーをより深く理解していただくためのものであり、当資料に記載されたいかなる情報も、当社株式の購入や売却を勧誘するものではなく、またこれらに関する投資アドバイス目的で作成されたものではありません。

本資料に記載されている当社の分析、業績見通し、計画、戦略などのうち、歴史的事実でないものは、現時点での入手可能な情報に基づく見解や将来の業績に関する見通しであります。これらは現時点で入手可能な情報に基づき株式会社エスイーの経営者が判断したものであり、リスクや不確実性を含んでいます。従いまして、これらの分析・業績見通しのみに依拠して投資判断を下すことは控えるようお願いいたします。

International Engineering Maker

